

災害時のペットとの同行避難について



ペットとの「同行避難」とは

災害発生時に、飼い主が飼育しているペットと一緒に避難所まで安全に避難することを同行避難といいます。避難所で人とペットが同一空間で居住できることを意味するものではありません。そのため、避難所での過ごし方は、避難所のルールに従いましょう。

同行避難をしないと大切なペットと二度と会えなくなってしまうたり、取り残されたペットを救い出すために、多くの危険を伴ったりする可能性があります。

災害はいつ起こるかわかりません。いざというときに適切な対応ができるよう、日頃からの備えや心構えが重要です。また、災害にあうのは人間だけではなく、家族の一員であるペットも含めた災害対策を考えましょう。

日頃の心がけ

ペットの健康管理

日頃からペットの習性、性格に合った飼い方を心がけ、健康を保つようにしましょう。定期的な健康診断やワクチン接種、外部寄生虫（ダニ・ノミ等）の駆除などに努めましょう。

ペットが迷子にならないように

突然の災害により飼っていたペットが驚いて逃げてしまうことがあります。また、飼い主が不在の時に災害が発生し、ペットと離れ離れになってしまう可能性もあります。保護されたときに、飼い主が分かるように、犬には鑑札・狂犬病予防注射済票、その他の動物には迷子札等を必ずつけましょう。ペットの身元を表示することは、ペットの救援を行う側にとっても重要な情報となります。

協力し合える仲間をつくる

避難所は、動物アレルギーをもった人等、様々な人との共同生活となります。日頃から飼育マナーに気を配り、飼い主以外の人ともコミュニケーションをとり、ご近所の方々の良好な関係を作ることが大切です。避難所でのペットの世話は、飼い主が責任をもって行わなければなりません。また、避難所での生活は、人と同じようにペットもストレスや不安を感じるため、ペットの体調にも十分気を配り、不安を取り除いてあげるように心がけましょう。いざという時のためにも、助け合えるように、ご近所や飼い主仲間と話し合うことも大切です。

しつけについて

避難所で初めて会うペットや大勢の人に興奮しないよう、飼い主がきちんとコントロールできるようにしましょう。

しつけの例

- ・ ケージ等の中でストレスなく過ごすことができる
- ・ 大勢の人や他の動物を怖がらない
- ・ 不必要に吠えない
- ・ 犬の場合は、「おすわり」「おいで」「まて」等、基本的な号令に従う

トイレは決められた場所です

など

災害時への備え

住まいの安全について

家族とペットの安全は、住まいの災害対策にかかっています。住まいの耐震強度の確認や家具の転倒防止対策等ができていないか確認しましょう。また、ペットが過ごす場所は、ブロック塀やガラス窓のそばを避け、安全な場所に設置しましょう。

避難場所・役割について

普段から家族で最寄りの避難場所や避難経路について確認しておきましょう。また、ペットを誰が連れて避難するのか、ペット用の防災用品はだれが持って出るか、子どもだけが在宅の時に災害が起きたらどうするかなど、さまざまなケースを想定して、話し合うことが大切です。

ペット用の防災用品について

- ・ 5日分以上のフード・水
- ・ 食器
- ・ 常備薬、療法食
- ・ トイレ用品（トイレシート、新聞紙、タオル等）
- ・ 首輪、リード
- ・ ケージ、キャリーバッグ
- ・ ガムテープ、油性ペン等
- ・ ペットの記録・ペットの写真
（※ワクチン接種状況、既往歴等を記載したもの）
- ・ おもちゃ、ブラシ、その他必要なもの



加東市市民協働部生活環境課

TEL：0795-43-0502